

小規模な学会としての特徴を生かした活動を*

松田亮三[†]

日本医療福祉政策学会という新しい名称での活動が始まり、早くも3ヶ月が過ぎました。本ニュースレターは、新名称での最初のニュースレターとなりますので、今後の学会運営についての抱負を述べさせていただきます。

まず、本会の新名称にふさわしい医療福祉分野の政策に関わる多様な研究を発展させるために、研究大会と学会誌の両方を充実することを追求していきます。本学会では、医療を広い意味での経済活動の一つとして把握し、さまざまな研究を積み重ねてきている会員や、現代社会の重要問題の一つである医療に関する政策動向を検討されてきている会員が多くいらっしゃいます。これまで行われてきた研究を振り返りますと、その研究は経済学・社会学・政治学など特定の学術領域には限られない学際的なものでありました。このようなことをふまえて、幅広い問題関心と方法を受け入れ、それらが相互に刺激し合えるような場となるような運営を心がけていきます。

次に、研究大会を軸にした年次計画を重視しつつも、小規模な学会の特徴を生かし、機動的な運営を心がけます。総会開催時には計画できなかった学術企画の主催や共催など、積極的な提案があれば、なるべくそれを受け止めて取り組みを進めたいと考えております。

最後に、インターネットを活用した学会内でのコミュニケーションの活発化と広報の充実です。会員向けメールマガジンを創設し、会員の出版された著書など各種の情報を迅速にすすめるようにしたいと考えています。また、すでに実施しておりますがウェブサイトによる広報を強化していきます。医療福祉についての現実の社会的課題の多様性に合わせて、学術研究が果たすべき役割も非常に多様なものになっております。そうした多様性を尊重しつつ、学術研究上のいい意味での刺激を与え、社会に貢献しうる学術の発展に本会が資するべく、会員諸氏の積極的なご提案をお待ちします。

*日本医療福祉政策学会ニュースレター第1号(2017年8月発行)に掲載。web掲載にあたり、書式ならびに一部誤字・脱字を修正しています。

[†]日本医療福祉政策学会会長、立命館大学産業社会学部・教授。